

環境モデル都市 円卓会議 会議録

部 会 名	ISOのまちづくり円卓会議		記入者	山田(さくら保育園)
開催回数	第2回			一期崎(市役所)
開催日時	平成21年7月27日(月)13時30分～15時			
開催場所	市役所秋葉2階ラウンジ			
出席者	所属	名前	所属	名前
	推進委員・ISO監査委員	齋藤 潔	地域婦人会	前田チヅ子
	商工会議所	小島 真一	市環境対策課	一期崎
	推進委員・校長会	齋所敬三	市教育総務課	岩井
	ごみ減量女性連絡会議	大迫紘子	市商工観光振興室	水田
	水俣さくら保育園	山田誠次	市環境モ推進課	川野・徳富・池崎
	出席者 計 12名			
欠席者	山海館(旅館)	松永	推進委員・青年会議所	渡邊 亨
	水俣高校	佃 隆樹		
欠席者 計 3名				
○前回の確認、環境モデル都市の事業報告について、事務局から説明 ・5/25に第1回ISOのまちづくり円卓会議を開催した(別紙のとおり)。役職、主な取り組み内容は以下のとおり。 役職) 進行役: 齋藤先生、世話役: さくら保育園 山田さん、事務局: 市環境モデル都市 川野、事務局補佐: 市環境対策課 一期崎 取り組み内容) ①環境基本計画の中の「地域丸ごとISO」 ②アクションプランの中の「ISOの取り組み」 事業所版ISO、家庭版ISOの見直し、地区環境協定 ・前回の円卓会議以降の動き 6/23 モデル都市推進委員会の開催: 各円卓会議の報告と今後の進め方について主に話し合われた。 7/1～8/4 地域講座(全23箇所)の開催: 地球温暖化、水俣市の取り組み、家庭での取り組み、レジ袋有料化の取り組み等について説明している。 7/4 環境モデル都市市民講座 村丸ごと生活博物館(頭石地区)にみなくるバスに乗って行った。一般15名が参加。 次回は8/25に給茶スポットとおいしいお茶の淹れ方についての講座を行う。 ≪質疑・応答≫ ● バスツアーには何名くらいの参加があったか? 事務局) 一般の方15名の参加があった。本円卓会議からは、齋藤先生が参加されている。 進行役) バスからの眺めや地産池消の食事で、たっぷり一日楽しんだ。 ○家庭版ISOのとりくみについて、環境対策課 一期崎氏から説明 ・家庭版ISOの取り組みは10年ほど前から始めたが、80件程度でストップした状態。 地域講座では、県の環境家計簿“エコファミリー”への参加をお願いしている。ISOは記録することから始まるので、まずは県の環境家計簿で記録してもらい、市の家庭版ISOが始まったときに利用してもらいたい。 市の家庭版ISOのスタート時期は未定。実務上の課題は、登録後のチェック・見直しをどのようにしていくか。県はパソコンで登録するようになっている。 ≪質疑・応答≫ 進行役) 水俣市の家庭版ISOの状況は? 環境対策課) ストップしているので、県のシステムを利用して意識を高めておいてほしい。 進行役) 水俣市版のシステムをつくってほしい。 環境対策課) 検討中である。 ● 他のモデル都市の取り組み事例の資料はあるか?				

内 容

事務局) 入手は可能。どこも同様の取り組みを行っている。

進行役) 県が環境家計簿のコンテストを始めたという新聞の記事を紹介。1ヶ月の電気・ガス水道の使用料を報告するもの。

- 水俣市の家庭版ISOは、新しく始めるのか？いまあるものを有効に使うのか？

環境対策課) 水俣市の家庭版ISOは、昔、職員を対象にやっていた段階で滞ってしまった。

- なんでやるのかという意識・目的をはっきりさせてほしい。
- 婦人会でも家庭版ISOはやっていない。
- 県・国でも同様の制度をやっている。窓口は一本化したほうがよい。
- 面倒だから続かない。ある程度項目を決めてやったほうがよい。
- 電気やガスは使用料を通知してるからまだわかりやすい。ガソリンなどはよくわからない。

よくわからない。

進行役) 電気とガス、水道料金の記録を1年間つけているが、つけているとおもしろい。

- 最終的には、CO₂の排出量を把握したいのか？そうだとしたら、やはり簡単につけてもらえる方がよいのではないかな。

進行役) 現在のものも、各家庭のCO₂の排出量まで計算できるが、そこまでするとハードルがあがる。

事務局) 効果をあげるためには簡単にすることが大事。全数把握ではなく、抽出によるデータ把握の方向にあると思う。コンテストの実施も考えている。

進行役) 使用料を他人に見られたくないという気持ちも働くが・・・

事務局) あくまでも自主的にデータを提出してもらうような形にしたい。参加者が増えればチェックも大変になるので、方法を考えたい。今年度は700戸の参加を目標にしている。

進行役) 今年度700戸、来年度も700戸・・・ということか？

事務局) 毎年度、新規加入が700戸で、5年間で3500戸の参加を目標にしている。

進行役) 小学校入学時や、5年生で環境センターを見学する時に家庭版に参加してもらうのはどうか。

事務局) 家庭版ISOは、中身よりも普及方法が課題である。中身は環境家計簿のようなものになるかと思う。普及させるために、学校だけでなく、婦人会のような団体にも協力してもらいたい。

- 普及と継続が難しい。

進行役) ごほうびも必要である。コンテストなどで景品をだすのはどうか。

事務局) 2段階での実施も検討したい。

①チェックだけをする: とりあえず参加してもらうことが目的。参加によって多少はCO₂も減らせる。

②チェックし、記録を提出する: CO₂の削減量のデータを得ることが目的。

- 目標が設定してある5年以降はどう考えているのか？

事務局) 5年間のうちに見直しを行う。5年以降のことはまだ確実に決まっているわけではない。

- 一番のねらいは、ISOの考え方を日常生活のなかに習慣化することである。

事務局) 環境モデル都市の行動計画の中には、様々な取り組みがある。その取り組み全体でCO₂の削減目標を達成すればよいので、ISOだけで絶対に個別目標を達成しなければいけないわけではない。

- 評価はどのように行うのか。

事務局) 参加者全体を市がチェックするのは無理がある。記録をする人は自己評価がある。毎年継続して参加してもらうのが理想だが、夏場や冬場など期間を限定して参加してもらうのも一つの方法である。実施方法は広く考えていきたい。

進行役) 市としては毎年最低700戸はチェックシートや資料等を配布するということにしないと、5年で3500戸は厳しい。

- ISOの14001という数字は何か？

事務局) 国際的な規格の名称である。それに則って審査をしている。数字は分野によって異なる。

- 家庭版ISOは、キャンペーン的な取り組みとして捉えるのか、それとも将来的なエネルギー消費量を把握するための取り組みなのか。

	事務局)まずは意識付けを行うことが目的。それを行動に移していってもら。そして行動する人を増やしていきたい。十分ではなくてもいいから、まず始めることが大切。 家庭版ISOを出してもらった人にはお礼も考えていいのでは。 ● きっかけづくりが大切である。例えば、家の新築、転入、結婚したときなど。 ● 商工会議所の会報が3ヶ月に1回くらいあるので、事業所版をいっしょに配布することはできる。 進行役)市民には刺激が必要である。各家庭に刺激を与えて取り組んでいかなくては。
次回開催日等	9月28日(月)13:30～ 家庭版ISO(新)のたたきを見て、意見を出してもら。

